

わかさ 議会だより

緑と清流のまち

第142号

平成24年

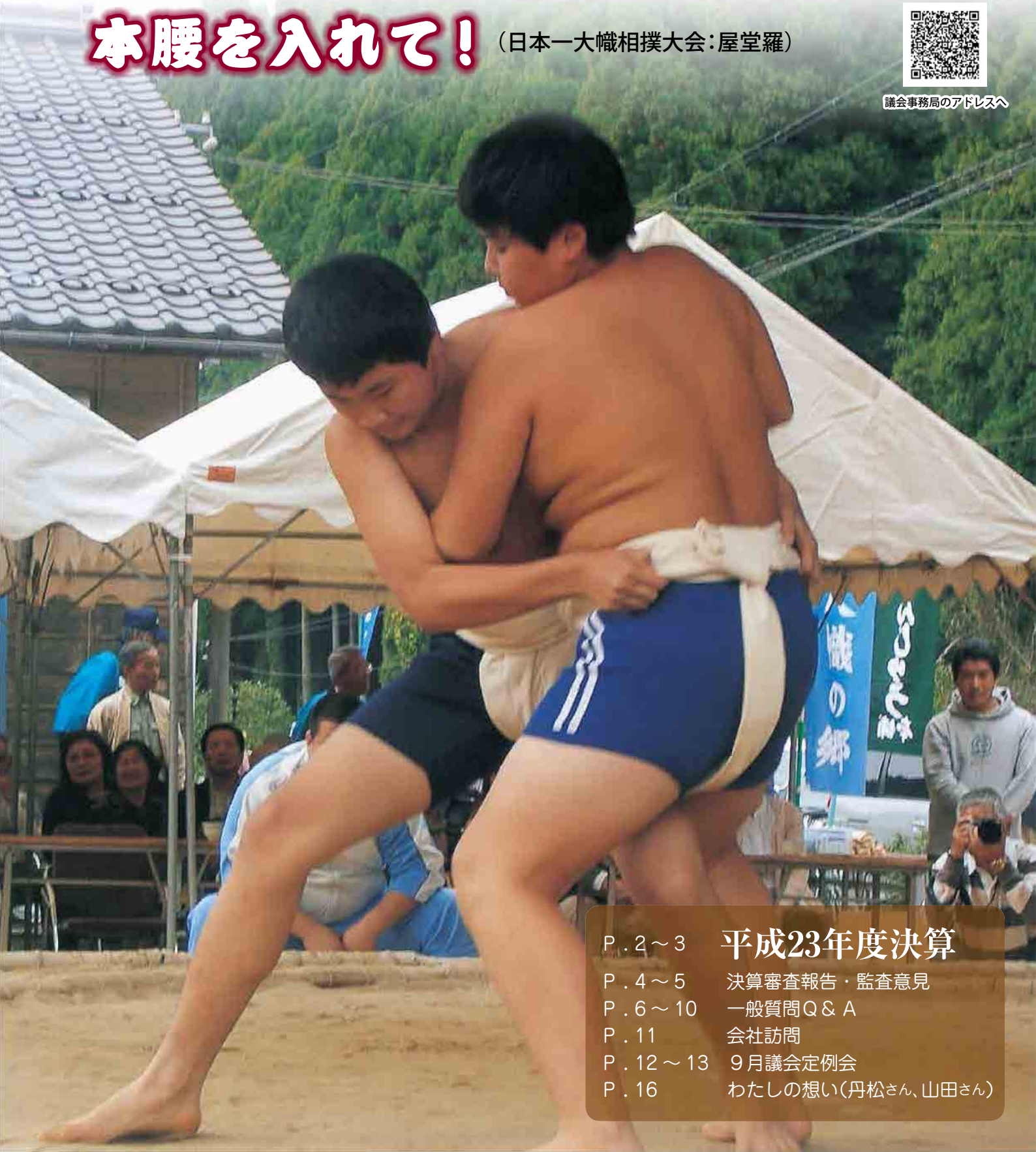
11月号

WAKASA TOWN

本腰を入れて！（日本一大幟相撲大会：屋堂羅）



議会事務局のアドレスへ



P. 2～3	平成23年度決算
P. 4～5	決算審査報告・監査意見
P. 6～10	一般質問Q & A
P. 11	会社訪問
P. 12～13	9月議会定例会
P. 16	わたしの想い(丹松さん、山田さん)

■商工費



- ・観光事業費 7,533万円
- ・商工振興事業 5,858万円
- ・氷ノ山集客促進事業 1,873万円

1億9,140万円

■消防費

- ・非常備消防費 1,832万円
- ・災害対策事業 422万円
- ・防災行政無線事業 360万円

9,473万円

■土木費

- ・公共下水道事業 1億3,604万円
- ・道路維持事業 6,887万円
- ・道路新設改良事業 3,863万円
- ・町営住宅管理事業（住宅費・管理費） 826万円

2億9,556万円



■総務費

- ・若桜鉄道対策事業 9,206万円
- ・地域情報通信基盤施設運営事業 3,354万円
- ・バス運行事業 3,015万円
- ・移動通信用鉄塔建設事業 1,924万円
- ・一般企画（電気自動車、外国語表記） 1,088万円

7億218万円

■教育費



- ・小中一貫校整備事業 3億3,222万円
- ・温水プール管理 1,634万円
- ・教育委員会事務局費（PCB処理他） 1,449万円
- ・中学校教育振興費 1,078万円

6億1,882万円

■農林水産業費

- ・森林整備事業 5,176万円
- ・林業屋堂羅線開設 3,966万円
- ・有害鳥獣駆除対策事業 2,630万円
- ・地籍調査事業（農業費・地籍調査費） 1,909万円
- ・中山間地域等直接支払交付金事業 1,478万円

3億3,883万円

■民生費



- ・後期高齢者医療事務費 7,938万円
- ・支援費事業（障がい者福祉費） 6,815万円
- ・子ども手当支給事業 4,291万円
- ・地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金事業（寄来屋） 2,406万円

6億2,414万円

【特別会計】

事業名	歳入	歳出	一般会計からの繰入金
国民健康保険	5億1,168万円	5億 91万円	3,648万円
介護保険	5億1,918万円	5億1,740万円	7,213万円
後期高齢者医療	5,123万円	5,084万円	2,077万円
簡易水道	9,319万円	9,307万円	3,070万円
公共下水道	1億8,387万円	1億8,387万円	1億3,596万円
農業集落排水	9,494万円	9,494万円	8,553万円
赤松団地造成	711万円	711万円	453万円
財産区造林	367万円	367万円	なし
住宅新築資金等貸付	146万円	146万円	なし
索道会計	523万円	3,062万円	なし

■衛生費

- ・塵芥処理対策事業 5,998万円
- ・健康増進事業 941万円
- ・し尿処理対策費 824万円

1億5,874万円

■災害復旧費

- ・林業用施設災害復旧事業 3,206万円

平成23年度
決算

実施事業はこれだ！

更なる教育振興に着手！！

若桜学園校舎完成

9月議会定例会は、9月12日に招集され、
9月25日に閉会しました。

一般会計

歳入 36億3,836万円

歳出 34億8,520万円

公債費 3億5,733万円

*事業を行うために借り入れたお金の元利償還金と一時借入金利息の合計額。

決算審査意見（要約）

監査委員 藤原 重明

監査委員 上川 裕見子

8月20日から27日までの6日間、平成23年度各会計歳入歳出決算書、事項別明細書及び実質収支に関する調書の計数と歳入歳出整理簿等関係諸帳簿・証書類を照合した結果、すべての重要な点において適正に表示されているものと認められました。

基金に関する調書の計数は、預け入れ金融機関の預貯金高と符合しており、適正であると認められました。また、土地開発基金の運用についても、適正であると認められました。

一般会計

留意、検討事項

○財政運営の指標

財政関係指標等の数値は、

経常収支比率81.2%→83.5%（2.3ポイント増）
指針となる75%に向けた改善努力を望む。

（地方債、基金残高の単位：千円）

区 分	数 値	
	平成22年度末	平成23年度末
経常収支比率	81.2%	83.5%
実質公債費比率（単年度値）	11.6%	9.8%
実質公債費比率（3年間の平均値）	15.1%	12.2%
地方債残高	5,555,340	5,546,421
内 訳	一般会計	3,039,479
	簡易水道事業会計	265,911
	公共下水道事業会計	1,278,353
	農業集落排水事業会計	936,190
	赤松団地造成事業会計	35,407
基金残高	1,621,776	1,707,319

○財産管理

- 公有財産のうち、「山林」の台帳整理（電子化を含む。）に遅れが見られる。早急に取り組まいたい。
- 昨年度も指摘したが、地域福祉センター・ドリーミー及び旧若桜小学校体育館敷地の一部民有地については、覚書に基づいて、交換用地を確保するよう早急に対応されたい。
- 基金から生じる預金利息について、会計年度の捉え方に統一性が見られない。会計制度に基づいて統一し、決算において説明できるような資料の作成をお願いしたい。



監査の様子

○各種税と使用料等収入未済額の回収と管理

町税をはじめ各種税と使用料等収入未済額は、回収…以前と比べ全般的に収入未済額が減少しており、努力のあとがみられる。各担当課は、さらに意識の向上を図り、気を緩めることなく回収に努力されたい。

管理…平成22年度末の農業費分担金の収入未済額65千円について、平成23年度に調定がなされていなかった。債権の管理を徹底されたい。

※その他、不納欠損処理、内部けん制、交際費、歳計外現金等の取扱い、決算事務、条例等の整理、災害対策についての指摘がありました。

特別会計（索道事業）

留意、検討事項

- 索道事業単独でみると黒字体質であるが、氷ノ山関連施設等を含めた一体管理を指定管理者である（財）若桜町観光開発事業団に委託していることにより、本年度決算においては大幅な赤字（25,196千円）を計上する結果となった。
町は、指定管理委託者として、（財）若桜町観光開発事業団の経営改善を指導するとともに、観光事業の新たな展開に協力・助言されたい。
- 本会計の貸借対照表によると「出資金100,000円」とあるが、この出資金はすでに返還されていることが判明した。早急に会計処理をされたい。

審査の経過及び結果

主なる意見

一般会計

- まち並みづくり推進事業は、支援が協議会となつていいるが、幅広く支援すべきである。特に、この事業は、各課連携が重要である。
- 敬老会は、実態を調査し、新たな観点で方法を変えていく必要がある。
- 老人クラブ助成は、地域高齢者が健康で、連帯感を深めるための活動に対して行うとなっている。老人クラブは8集落が未組織となつており組織化すべきである。
- 特産品開発支援事業は、特産品開発に必要



決算審査の様子

要な経費を助成する事業であるが、支援後の効果が重要であり、検証すべきである。

- 活性化施設（味工房）の運営は、道の駅管理事業と大きく関係があり、製造・販売の関係

- 地籍調査事業は、進捗が遅い。体制等検討すべきである。
- 町産材住宅補助は、県の補助基準や住宅建設に限るなど条件が厳しいため利用が無かつたと考えられる。町独自の補助制度とし、利用拡大を図るべきである。
- 氷ノ山関連・公の施設指定管理は、経営診断を受け、赤字となつている原因の分析と対策を講じるべきである。
- 町営住宅・改良住宅管理事業は、家賃滞納が多く見られる。厳正に徴収すべきである。
- 「史跡若桜鬼ヶ城跡保存管理計画」はできが、保存に向けた動きが見られない。遊歩道に危険箇所があり、史跡を有効活用するためにも早急に整備すべきである。
- 「赤松団地造成事業」早期完売に向けて努力すべきである。
- 「住宅新築資金等貸付事業」各戸ごとの返済計画を立て回収にあたるべきである。
- 「簡易水道事業」基金が底をついている。各簡水の統合、施設の早急な整備を行い有収率アップなど、経費の削減を図るべきである。
- 「公共下水道事業・農業集落排水事業」接続率アップによる使用料の増額を図るべきである。
- 「国民健康保険事業・介護保険事業」病気や介護予防に重点を置き、給付費の削減に努められるべきである。

特別会計

Q 一般質問 A

詳しくは

若桜町ホームページ→各課のご案内→議会事務局→会議録



質問者
中尾 理明 議員
坂本 等 議員
上川裕見子 議員
奈羅尾寿夫 議員
前住 孝行 議員

9月議会定例会の一般質問は、9月13日に行われ、5人の議員が町政の課題について質問しました。質問の要旨と町長の答弁を要約して紹介します。



坂本 等 議員

③線路、電路、枕木交換等基盤整備計画についてお尋ねします。

②すれ違い駅を整備することで、密度の濃いダイヤ編成が可能となり、利便性向上につながります。有利な補助制度を模索し、検討したいと思います。

③平成21年度から10年間の鉄道事業再構築実施計

観光列車の運行

町として基本的な姿勢は

収支の見通しを精査し 総合的に検証する

Q ①若桜鉄道（株）が観光列車（SL列車）の運行計画を発表されていますが、若鉄の筆頭株主である若桜町として、基本的な姿勢を伺います。

小林昌司町長

A ①観光列車の運行は、沿線地域や鳥取県東部の活性化につながるものと認識しています。現在の試算にはSLの復元費やすれ違い駅設備費など5億円が記載されていますが、これは若桜町、八頭町の行政が作成したものではありません。今回、運行経費など精査するため、専門業者への委託費を計上しています。結果を勘案し、総合的に検証していきます。

防災対策

見守り、訓練、教育の徹底を 適宜変更を

Q 私は現在のハザードマップで、避難所に指定されている公民館の地すべり・土砂崩落危険地域から外れているところを点検してみました。その結果、該当するのは、大野集落だけでした。土砂災害特別警戒区域の検討もされる中、対策強化が求められています。避難所について、今どのような検討がなされているのか伺います。

A 建物内が安全とは言

小林昌司町長

Q 昨年度、災害時の高齢者・障がい者見守り支援システムづくりの事業が実施されましたが、どの程度進んでいるのかお尋ねします。

小林町長

A 災害時の要援護者避難支援システムについては、安全、円滑に避難していたくもので、要援護者の詳細な情報、避難場所や避難経路、協力員、医療情報などの管理、エ

リア内の安否確認が迅速にできます。現在、社協と包括支援センターで情報の入力中で、今年度中に台帳の整備を行いたいと考えています。

Q 東日本大震災は、昼間起きました。日頃から防災教育訓練を積み重ねた釜石市の小中学校では、ほぼ全員が津波から助かったと高く評価されました。若桜学園が開校し、防災教育訓練も見直しが必要だと考えますが、状況を伺います。

高木政寛教育長

A 的確な防災教育に取り組んだ釜石の奇跡に学ぶところは大きいです。開校にあわせ、避難訓練も含む防災計画などの改訂を行いました。1学期に火災時の避難訓練を実施し、おおむね迅速に対応でき、新校舎に対応した避難ができたことです。先生方は災害の怖さについて体験学習を交え、授業で教えることに意欲的です。教育委員会

韓国友好交流

町民・企業を対象に

文化、スポーツなど多角的、長期的展望にたつて

画を作成しており、安全確保を最優先に整備を進めています。

Q ①平成2年から中国石家荘市中学校、平成12年から韓国原州市中学校と若桜中学校の交流を進めてきましたが、総括をお尋ねします。

②平成22年度、韓国平昌郡との友好交流協定が締結されています。行政サイドの交流に加え、町民や企業、商工会を対象とした経済、文化交流等に発展すべきと思いますが、いかがですか。

③8月10日、韓国大統領の竹島上陸以降、両国の関係が悪化しています。今後の交流について伺います。

として、これからも支援と助言を進めていきたいと思っています。



オスプレイの飛行の様子（ウィキペディアHPより）

オスプレイ

配備と飛行訓練の中止を 県と連携し 中止の要請を

Q アメリカと日本政府は、米軍機垂直離着陸機オスプレイの岩国基地搬入を強行しました。10月、沖縄普天間基地へ配備後、若桜も通過点となるブルーノールトを含むフルートで低空飛行訓練を実施しようとしています。

す。今年2回、過去数多くの事故を起こしているオスプレイの訓練計画には地上60mでの訓練も含まれており、極めて危険です。このような配備訓練について、若桜町としてどのように対応されますか。

小林町長

A 今回のオスプレイ配備については、関係自治体の意向が無視され、進められていることに強い憤りを覚えます。戦闘機の低空飛行が行われている若桜町として、配備後の訓練が予測されるルートにある関係自治体や県と連携を図り、国に対し、中止の要請を行っていきます。

高木政寛教育長 A 近いうちに返答があると聞いています。人的交流をして、文化や友人との出会いから様々なものを吸収して、国際感覚豊かな人間に育って欲しいと考えています。

基本条例

住民投票規定は

必要と考える

Q ①住民基本条例制定の進捗状況を伺います。

②条例の構成、住民投票規定について伺います。

小林町長

A ①本年度中に原案を議論し、来年4月にパブリックコメントを実施し、6月には制定したいと思っています。

②町づくりの基本理念・住民行政・議会の役割・住民参加による住民自治での最高規範性となるもので、住民投票は、必要だと思っています。

Q 一般質問 A



奈羅尾寿夫 議員

Q 氷ノ山の観光振興について、県の生活環境部公園自然課の主催で「氷ノ山一帯の地域経営の在り方ワーキンググループ」が15名で発足をしています。このグループは

小林昌司町長

Q 官民一体での、「氷ノ山一帯の地域経営の在り方検討ワーキンググループ」が発足し、初会合が開かれました。このグループはどのような組織で、何を指して活動されるのか伺います。

地域振興策

地域経営の在り方 検討グループとは

豊かさを共有できる 仕組みづくり

氷ノ山一帯の特長を活かして、観光リゾート地としての経済的な豊かさが共有できる仕組みを考え、そのコンセプトと具体的手段を明確にすることを指して設置されました。具体的な内容はこれから検討するところであり、何かをするといった段階には至っていません。

Q 年間の集客数が減少していますが、19歳をターゲットにしたリフト料金無料の試みをされました。19歳無料で、どれくらい集客数が増えたのか、また、次のシーズンも実施されるのかどうか伺います。

小林町長

A 氷ノ山全体の年間集客数は減少していますが、昨年のスキー場の利

平昌郡交流

即戦力になる職員態勢に

しっかりと学ばせてから

Q 国際交流員の職員相互派遣で若桜町職員の在韓中、また、受け入れた平昌郡職員の在日中及び、双方の帰国後の目的達成度を伺います。

小林昌司町長

A 職員相互派遣研修は、派遣先で主要行政の習得、言語・文化・歴史等の理解を深めることが目的です。研修期間中に人とつながること（人脈）が何よりの財産になると思います。事業を継続し、自治体同士の友好関係を築きたいと思います。



上川裕見子 議員

Q 前交流員は、町報で言葉の重要性を報告されていた。現韓国交流員は、午前中は日本語の勉強をされています。早めに次の派遣職員を決定し、一緒に語学勉強をして即戦力になる準備をされているかがですか。

Q 10月14日の鬼つまつりに平昌郡のブースを設置し、自治体紹介や観光PRために3名が来町されると聞いています。ここでの前交流員と、現韓国交流員の関わり方は、どのようにされますか。

小林町長

A 前交流員や現韓国交流員にブースに居てもらい、住民の皆さんへの説明などをさせてみたいと考えています。

小林町長

A 言葉が通じなくて苦労しているようにも聞いています。今回の人事異動で交流員を希望する職員もいます。なるべく早く決めてしっかりと語学を学ばせてから行かせたいと思っています。

Q 交流員をしていた他町の知人は、来られる交流員と接することだけでなく言葉を感じたと言っていました。派遣職員がせっかく覚えた韓国語を忘れないように、できれば若桜学園が交流を始めるときに通訳ができるくらいマスターしないともったいない。語学の継続ができる対策も必要ではありますか。

小林町長

A 交流をして帰ってきた職員を活かすということも、これからは大事なことであり、考えていきたいと思っています。

ふるさと納税

記念品の検討は

特産品のPRも

Q ふるさと納税は、本町の財政面にとって大変ありがたい制度です。最近はネット上の一覧表を見て、特産品を楽しむにふるさと納税をされる方もあるようです。多くの方から評価を得られつつある若桜米や、栃餅などのお餅セット、季節の野菜2回セットなどを新設してはいかがでしょうか。

小林町長

A お米、野菜など安定的に生産し継続的に提供する



現在の記念品（若桜町HPより）

A ふるさと納税は、全国に若桜町のファンや応援団をもつことができ、本町の特産品等もPRできるよい制度ですので、お礼の気持ちの表わし方を多方面から検討したいと思っています。

小林町長

Q ふるさと納税により若桜町のファンや応援団を増やすため、連続3年又は3万円以上寄附された方に、ダブルチャンスをつけてはいかがでしょうか。

可能ななどいくつかの課題はありますが検討したいと思っています。寄附者に喜んでいただける特産品を提供したいと思っています。若桜町をPRできたかと考えます。また、PRが一番大事なことから、ふるさと納税のホームページを調べてみたいと思っています。

用者は4年ぶりに増加しています。連絡道の新設やキッズルームの開設、19歳リフト無料など取り組んだ結果、5000人の増加となりました。この中で、昨年度の取り組みは、引き続き実施することになりましたので、PRに努めていきたいと思っています。

Q 若桜の子どもたちのリフト料金減免は、冬季スポーツの振興を図るために必要です。料金が負担となって回数も減り、選手も少なくなっているように思われます。スキー場を持った若桜町の特性を活かした子育てを支援してはと思います。が、町長の所見を伺います。

小林町長

A 現在スキー場を持った若桜町の取り組みとして、学校のス



豪快な滑り

キー遠足やスキー教室のリフト代の無料化や児童生徒を対象とした1日券の割引を行っています。昨年度1日券500円割引実績は小学生22枚、中学生3枚と利用も低いようです。このままでは本町における冬季スポーツ選手の育成が危ぶまれると思います。1日券購入に対して、一定の金額を補助し、学園の児童生徒の負担が一律になるような軽減策も考えたいと思っています。

リフォーム助成

制約の少ない制度を導入しては

若桜町産材利用促進事業で

Q 本町にはいろいろなリフォーム助成制度があります。どのような改修にも使えて、大きな制約のない住宅リフォーム助成制度を創設され、導入をされてはと思います。が、伺います。

小林町長

A 鳥取県においても5つの市町が住宅リフォームの助成制度を実施しています。この事業の目的は、建築業者等の支援であると認識しています。

若桜町産材利用促進事業という住宅リフォーム助成制度があります。建築業者、工務店の支援だけでなく、若桜町産材の需要拡大により、地元森林所有者、素材生産業者、製材工場等の支援も行っています。木材を原材料とする方が環境への負荷が少なく、PRに努めたいと思っています。

◆総務産業常任委員会◆

会社訪問

会社の現状、今後における計画等の質問をし、説明を受けた。

7月29日 アロイ工業（株）

訪問地 岡山県津山市
参加者 議員5名、議会事務局2名、副町長、担当課2名 計10名
説明者 取締役 黒田英夫氏 技術主任 山本貞治氏
内容

- ・研究施設を兼ねた、防塵対策された蓄電池製造設備の視察。
 - ・現在、5000セル/日を製造（※セル＝縦、横20cm位の薄型電池）。
 - ・鳥取市工場において、最終10万セルを目標。
 - ・将来、値段・性能とも大手にひけをとらない大型蓄電池BOXを製造。
- 若桜においては、LED照明機器を製作し、研修センターとしても立地していきたい。



リチウム電池の製造工程

8月29日（町内2社）（株）長谷川商店

参加者 議員6名、議会事務局2名、計8名
説明者 工場長 川東義典氏
内容

- ・本店は加古川市（昭和26年設立）。焙煎工場は、若桜のみで対応、若桜での創業（平成13年より）。
 - ・正社員、パート含め11人（町内8人）
 - ・製品は、主に大手メーカーへ、ペットボトル飲料の原料として出荷。
 - ・工程は、洗い、乾燥、ふるい、焙煎（270～280℃）、製品仕上がりまでオートメーション化（夏場工場内温度は50℃位になる）。
 - ・製品は、外観色、香り、水分、味等一定を保つ事が必要で、規格外品は、廃棄処分される事もある。
- 地域において、様々な活動等に積極的に参加し、コミュニケーションを取るよう心がけている。



長谷川商店の焙煎工場

ソーイングシミズ(有)中原工場

説明者 代表取締役 志水裕一氏
内容

- ・製品は、主に学生用体操服、ポロシャツ、Tシャツ等。
 - ・作業は、縫製のみで、8000着/月、10万着/年で目標は12万着/年。
 - ・町内の人、限定で募集しているが、5名位増員したい（現在10名）。
 - ・将来、事業規模の拡大を考えている。
- 行政と双方で検討し、地域の高齢者に働く場所を提供してみたいと思っている。
- 議会の訪問等今まで経験がなく、実状を知ってもらうためにもよい機会となった。

感想

今回訪問した町内2社は地域に密着しようと努力されている事を受け、行政、議会もきめ細やかな対話、対応が必要であると感じた。



ソーイングシミズの作業の様子

8月7日 八頭町議会との交流

若桜駅構内12系客車内において、まちおこし、地域おこし協力隊、観光列車等について八頭町議会総務常任委員会と、両町の地域活性化対策についての意見交換を行った。

Q一般質問A



前住 孝行 議員

Q 「誰もが気軽に利用できる芝生広場やジョギングコース、遊具の整備」というような旧若桜小6年生提案に加えて、会員制のグラウンドゴルフ場にしてはどうかと思いましたが、所見を伺います。

小林昌司町長

見込める運営形態をどうするかなど、住民の意見をいただきながら、今後しっかりと検討していきたいと思っています。

Q 定期的な運動をしている人としていない人では医療費に3倍近くの差が生じるそうです。ある町の病院がコミュニティの場所になっていて、待合室の患者さんの会話の中で、「あら、〇〇さんがおられんですけど、具合が悪いのかしら」という会話が合ったそうです。そこで重要となってくるのがコミュニティ施設です。このグラウンドゴルフ場に併設のコミュニティ施設を設置しては。

A 大きな箱物は、今のところ考えていません。

小林町長

Q 昨年の11月20日に、赤松地区を拠点とした防災訓練が行われました。反省会を実施されていないようですが、実施してみたい課題やその後の対策について伺います。

小林町長

A 避難誘導、情報収集伝達、炊き出し、被災状況調査、はしご車体験、防災グッズの展示など訓練内容を振り返っても、課題として位置付けることは特になかったように考えます。町としても定期的に拠点を設けて防災訓練も考えたいと思っています。

Q 若桜町は洪水、土砂災害、大雪などが想定されます。今後の展開についての所見を伺います。

防災対策

様々な災害に
対して、今後
の展開は
住民生活の
安定に努める



崩落した町道脇の護岸

A 水害に対しては、引き続き河川改良、治山、治水、森林整備など取組むことが大切です。林道、作業道の整備など森林整備事業も災害対策と言えるかもしれません。

次に、土砂災害対策については、地滑り対策事業などを実施して災害を未然に防ぐことも大切であり、国や県に対して要請し、崩壊防止向上を推進することが大切です。

また、雪害対策については、国県町道の除雪は計画に基づいて行っている。

小林町長

広報の発展

タイムリーな
情報提供のた
め導入は
メリット・デ
メリット等を
検討

Q ソーシャルネットワークサービス（SNS）を若桜町がどんな動きをしているのか、タイムリーに情報を発信する手段の1つとして導入しては。

小林町長

A 自治体が導入するとなれば、メリット・デメリットをよく検討し、取組みにかかる労力、時間、予算なども併せて検討する必要があります。

ますが、もし豪雪、雪崩などにより交通が途絶した地域が発生すれば食料、衣料品不足、救急患者の発生などに対応し、住民生活の安定に努めることが大切だと考えます。



跡地利用はどのように？

第4回 議会臨時会

平成24年8月1日
原案通り可決した。

議案 工事請負契約の締結
工事名 旧若桜小学校校舎解体及び給食センター改修工事
工事場所 若桜町大字若桜501番地
契約の相手方 八頭郡若桜町若桜1111番地5 中一建設株式会社
代表取締役 中尾 仁
契約金額 金30,345,000円

若桜町一般会計補正予算(第2号)

主な歳入
地方交付税 6396万円
県支出金 2139万円
町債 △935万円

主な歳出
国際交流事業 平昌郡より鬼っ子まつりに紹介ブース設置等 46万円
若桜鉄道対策事業 保守管理・鉄道ミュージアム事業・

WAKASA					
請願書・陳情書審査結果					
9月議会定例会において常任委員会に付託した陳情は、慎重な審査の結果、次のとおり決定しました。					
番 号	受理年月日	件 名	陳情者等	付託委員会名	審査結果
陳情第13号	平成24年6月7日	消費税増税に反対する意見書の提出を求める陳情書	鳥取県民主商工会連合会 新日本婦人の会鳥取県本部 鳥取県労働組合総連合 鳥取県民主医療機関連合会	総務産業常任委員会	不採択
陳情第14号	8月3日	地球温暖化対策に関する「地方財源を確保・充実する仕組み」の構築を求める意見書の採択について(依頼)	全国森林環境税創設促進議員連盟 会長 板垣 一徳	総務産業常任委員会	採 択
陳情第15号	8月21日	屋堂羅小場ノ下付近の護岸嵩上げ及び、河床掘削に関する陳情書	屋堂羅自治会長 伊井野 政文	教育民生常任委員会	採 択
陳情第16号	8月21日	屋堂羅中村地区土砂災害警戒区域(急傾斜地の崩壊)の町道に接する部分の防止網の修復改善に関する陳情書	屋堂羅自治会長 伊井野 政文	教育民生常任委員会	不採択
陳情第17号	8月21日	屋堂羅中村地区下手、町道横断排水溝修復に関する陳情書	屋堂羅自治会長 伊井野 政文	教育民生常任委員会	採 択
陳情第18号	8月21日	屋堂羅集落町道内の冬季スノーポール設置に関する陳情書	屋堂羅自治会長 伊井野 政文	教育民生常任委員会	採 択
陳情第19号	8月23日	若桜鉄道観光列車運行事業についての陳情書	若桜鉄道沿線活性化協議会 会長 藤原 源市	公共交通調査特別委員会	継続審査
陳情第20号	8月31日	地方財政の充実・強化を求める陳情	自治労鳥取県本部 執行委員長 本川 博孝 若桜町職員労働組合 執行委員長 寺西 満	総務産業常任委員会	採 択

請願 陳情

請願・陳情は、町民の皆様が町政などについての要望等を、直接議会に書面で提出できる制度です。議長宛に議会事務局へ提出してください。提出された請願・陳情は関係の常任委員会で審査の上、本会議で採決し、採択された請願・陳情は行政に生かされます。詳しくは、議会事務局（☎82-2212）にお問い合わせください。

九月議会定例会

シカイノシシの 捕獲頭数の増加を見込む！

平成24年度

一般会計総額

32億6024万円

7654万円を追加補正

条例

若桜町防災会議条例及び若桜町災害対策本部条例の一部を改正する条例

災害対策基本法改正に伴い防災対策の充実を図る。

予算

若桜町一般会計補正予算(第2号)

主な歳入
地方交付税 6396万円
県支出金 2139万円
町債 △935万円

主な歳出
国際交流事業 平昌郡より鬼っ子まつりに紹介ブース設置等 46万円
若桜鉄道対策事業 保守管理・鉄道ミュージアム事業・

観光列車運行等 有害鳥獣駆除対策 捕獲頭数増加に伴う報償費・電気 柵等補助金 水産業振興費 溪流魚放流 商工振興事業 プレミアム商品券 氷ノ山集客促進事業 キッズルーム開設 小学校管理費 若小解体工事に伴う調査・巻米分 校屋根瓦修理	962万円 1049万円 50万円 600万円 230万円 293万円	介護保険事業特別会計補正予算(第2号) 主な歳入 一般会計繰入金 主な歳出 一般管理費委託料	263万円 263万円
簡易水道事業特別会計補正予算(第2号) 主な歳入 一般会計繰入金 主な歳出 拡張改良工事費	277万円 277万円	赤松団地造成事業特別会計補正予算(第1号) 主な歳入 土地貸付料 主な歳出 赤松団地管理費印刷製本費	6万円 20万円
システム改修	105万円 105万円 105万円	一般会計繰入金	△14万円

人事

若桜町教育委員会委員の任命

若桜町教育委員会委員に次の者を、任命したいとの申し出があり、同意した。

高木 政寛氏(農人町)

若桜町教育委員会委員の任命

若桜町教育委員会委員に次の者を、任命したいとの申し出があり、同意した。

上原 康嗣氏(下町)

議員提出議案

- ・地球温暖化に関する「地方財源を確保・充実する仕組み」の構築を求める意見書
- ・地方財政の充実・強化を求める意見書
- ・北朝鮮による日本人拉致問題の早期解決を求める意見書
- ・オスプレイ配備と低空飛行訓練中止についての意見書
- ・総務産業常任委員会の閉会中の調査研究について
- ・教育委員会の閉会中の調査研究について
- ・公共交通調査特別委員会の閉会中の調査研究について

委員会活動報告

総務産業常任委員会

9月6日 9月定例会補正予算について

企画財政課

Q 国際交流事業費の追加は、どのような事業か。

A 平昌郡から3名、10月に来町される。歓迎するための計上である。

Q₁ NPO法人への車輛の無償譲渡だが、町民への利益の還元は。

A₁ タクシーのない地域の役割という名目での購入である。利用者の利便性の向上につながる。

Q₂ 100%補助事業は考えられないが、町民への説明は。

A₂ 宝くじ事業で採択されたもので、100%補助となった。



防災設備工事（道の駅内）

総務課

説明 国土交通省で道の駅に水槽、発電機トイレ（災害用）を設置して頂く事になった。町民の避難所としての位置づけである。

産業観光課

Q 獣肉解体施設の建設場所は。

A 旧森林組合の敷地内に計画している。保健所、八頭町との協議を進めて行く。

教育民生常任委員会

8月6日 閉会中の継続調査

町民福祉課

Q 旧塵芥処理場解体事業については、現在使用している業者と話し合いをしたのか。

A これから協議したい。



解体される旧塵芥処理場

町土整備課

Q お試し住宅事業の進捗状況は。

A プロポーザル方式（※2）で、県道沿いに建てたい。和風建築で提案してもらう。

教育委員会

Q 自転車通学の範囲（距離）については、解決したのか。

A 今年冬の実態を見ながら柔軟性を持って対応していきたい。

（※2）プロポーザル方式とは、提案型の入札方式。

9月5日 9月定例会補正予算について

町民福祉課

Q 移動販売車の進捗状況は。

A 10月中には走らせたい。また、販売経路については議会とも相談したい。

町土整備課

説明 赤松団地を割賦販売方式で販売したい。定期借地権の契約をする。途中で土地を購入したいとなれば、その時点で鑑定評価をして販売できる。

教育委員会

Q 温水プールで開催される水中運動講習会は、町民も参加できるのか。

A 時間を分けて、町民向けの講習会もしたい。

若桜町議会と大韓民国平昌郡議会との交流

1 目的

平成22年11月8日、大韓民国平昌郡と若桜町の間で締結された友好交流協定に基づき、両町郡のさらなる友好親善を図るために平昌郡を訪問し、自然・文化・歴史・産業について直接学び、本町の発展に寄与することを目的とする。

2 期 日 平成24年7月8日（日）～10日（火）

3 派遣人員 議員6名、副町長、教育長、議会事務局長、企画財政課職員の10名

4 交流内容

- （1）歓迎晩餐会
- （2）友好交流懇談会

5 視察先

- （1）龍坪リゾート
- （2）ALPENSIAリゾート
- （3）三養畜産大関嶺牧場



意見交換をする両議会・執行部

6 訪韓団としてのまとめ

平昌郡と若桜町の友好交流発展には、議会・議員の交流が大切との思いを直接届ける機会を得て、平昌郡議会のハンミョンソプ議長、各議員、さらにはイソンレ郡守と、交流の活性化が必要との認識で一致し、交流目的を果たすことができました。

特に、イソンレ郡守の「世界に目を向けなければ発展しない。取り残される。」の言葉には深い感銘を受け、相互交流で国際感覚を養成することの大切さを学びました。また、訪韓中の随員職員の態度から、平素から職員教育が徹底されていると感じられました。

「友好親善」から「開発・創造的な交流」へ発展するためには、身近な観光、文化、芸術、青少年教育などの人材育成という観点も取り入れながら、町民参加の機会を作ることが大事であると思いました。

町民、商工会、企業などが中心となり、農林産物、特産加工品などの商品交流をする事が重要であると考えます。友好交流懇談会の中で、「平昌郡のスキー大会の優勝者と、若桜町のスキー大会での優勝者同士を交流することができないか。」「キムチ料理づくりの交流などができないだろうか。」というような、具体的な提案もしました。前向きに検討され、実現することを期待しています。

三養畜産大関嶺牧場では、広大な土地を風力発電や観光資源として活用され、畜産だけに頼らないで複合経営にされているところが参考になりました。また、「開拓精神」「自然百景」「希望」などの文字を漢字で記した石碑がたくさん建っており、これは94歳になられる牧場の会長が指示され建立されたとの話を聞き、日本人が忘れて「心」に触れた気がしました。

また、三年前に来町されたチャントング議会専門委員は、当時の写真、名刺を大事にされており、短い出会いをも大切にしてくださっている心の温かさに、言いようのない親しみを感じました。

平昌郡は、人も土地も本当に良い所でした。次への交流の機会がつかれることに努力したいと思います。



記念品を交換する議長

わたしの想い



このコーナーは、町民の皆さんからの
議会、議員や議会だより等に関わる要望や
率直なご意見を紹介いたします。



おもちゃ館から

山田 静子さん
(山田町)

先日、テレビで『ごんべえ』という種まき機が出ていました。なぜか我々の世代は『権兵衛が種まきヤカラスがほじくる』という言葉の思い浮かべてしまいます。でも、今の若い世代の人には馴染みのない言葉ではないかと思えます。子どもとの会話も、年上の人の話を聞く機会も、テレビやゲームの普及などによって少なくなってきました。昭和の中頃に生まれた者の言うことですが、昭和という時代は、物はなくても工夫して作っていく環境で育って来て、不便も愉しんできたように思います。

そんな時代を今の子どもたちにも^{たの}愉しんでもらいたい、夢を持ち続けてもらいたいと思いながら、駄菓子屋兼おもちゃ館のおばちゃんやっています。

安くて、品物にこだわったメイドインわかさのおみやげを売りたいです。小さな小さな昭和おもちゃ館から、大きな大きな夢を持つ子どもたちが育ってくれて、昔の子どもの頃の夢を思い出して喜んでもらえる場所になればいいな。

自主防災

丹松 正信さん
(西町)

消防団を離れた今、側面から防災を考えています。官民一体で行われていますが、本当に自分自身、この地域は、大丈夫かと思っています。

高齢化が進み、自分一人で行動できない人々が増える中、誰が誰を避難させるのか？そして、個人情報保護を主張される方はどこまで関われるのか？そうならば助かる人も、助けられません。

中山間地見守り隊とか、自治体内の組織化等を今一度考えていただく必要があります。消防、救急が完備されていますが、初期行動なしで人命を救う事はできません。となり近所、自治会、町と地域一丸となって我が身を守る精神を持つ事が必要だと思えます。

常日頃から話し合い、訓練を行い、いざという時、お互い「良かった」と言えるようにしたいものです。「歩ける人は誰を、歩けない人は誰に」の精神で、組織を見直し、後悔先に立たずにならないようにしたいものです。

要は自主防災が重要ですが、本町はどうですか。そして、自治会も町も一つ一つ見直してはいいかがでしょうか。

意見・写真をお寄せください

メール gikai@town.wakasa.tottori.jp

FAX 0858(82)2222

あとがき

今年に入って領土問題が次々と起こり、中国で日本企業への襲撃・略奪事件まで起こりました。政局は、民主党総裁選挙で、野田総理が再選。自民党総裁選に地元選出、石破議員が出馬されたが、残念な結果でした。しかし、幹事長の職に就かれ、一日も早い政治の安定を望んでいます。

本町では、「若桜学園」第一回運動会が和やかな雰囲気の中で開かれ、児童、生徒の笑顔にとっても癒され感動しました。

決算審査も終わり、新たな施策に取り組みたいと考えています。議会だよりも、前号から表紙をリニューアルしました。愛読していただくよう編集に努力を重ねたいと思います。

議長 岡本 和廣
議会だより調査特別委員会

委員長 前住 孝行
副委員長 中村 敏明
委員 奈羅尾 寿夫
委員 山本 晴隆